

今別町

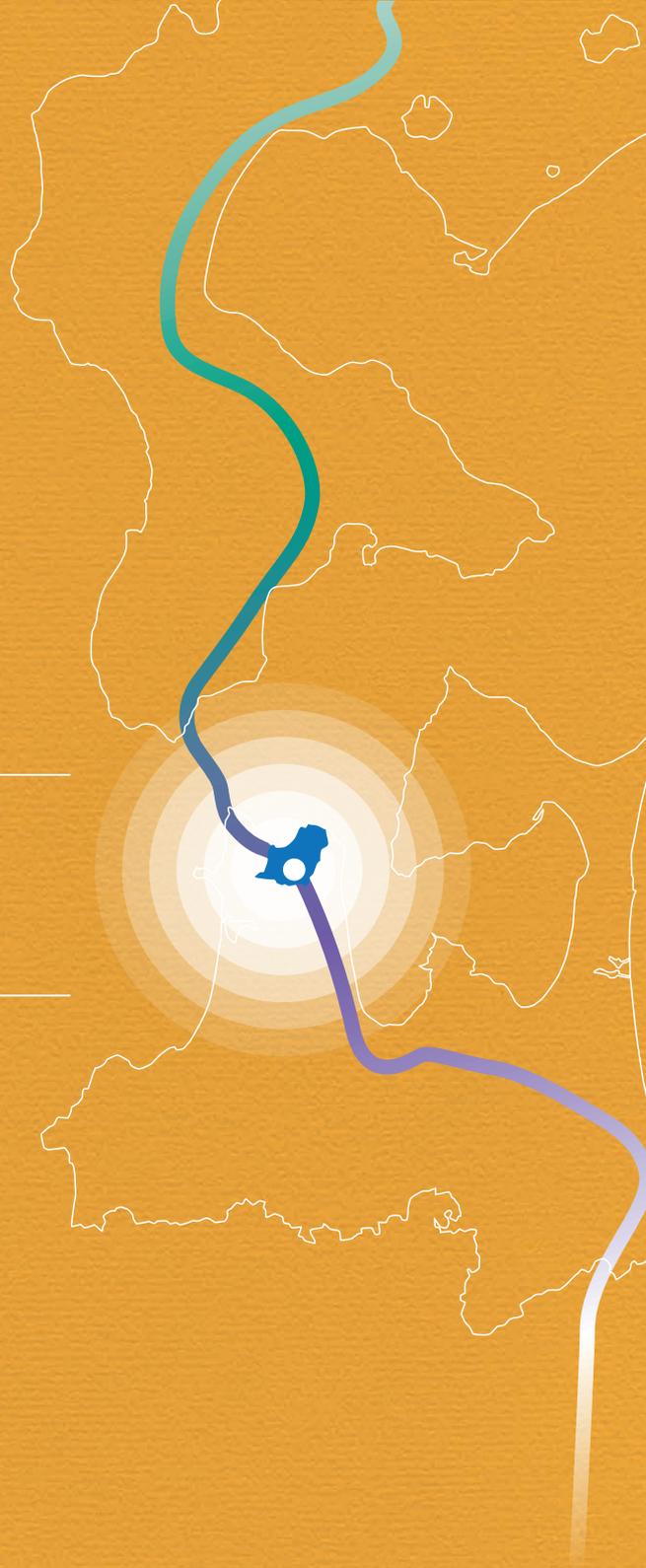
[総合戦略]

Comprehensive
strategy

町の将来像、みんな活き活き健康長寿
奥津軽いまべつタウンを目指して

平成28年2月

青森県今別町



目 次

1 基本的な考え方

1-1 趣旨	1
1-2 総合戦略の位置づけ	1
1-3 計画の前提となる社会背景	2
1-4 計画期間	2
1-5 計画人口	2
1-6 町の将来像	3
1-7 県・市町村間の連携	3
1-8 3つのまちづくり理念	4
(1) 「地域資源を活かし、交流促進でにぎわいを創出するまち」	4
(2) 「産業を振興し、将来を担うひとを育み、安心して暮らせるまち」	5
(3) 「みんな生き生き、お年寄りと子供にやさしいまち」	7

2 重点プロジェクト策定の方向性

2-1 プロジェクト策定の背景	8
(1) 人口減少と少子高齢化社会の進行	8
(2) 基幹産業である一次産業の衰退	8
(3) 住環境として選ばれる地域づくりの必要性	8
(4) 環境にやさしいまちづくりの必要性	9
(5) 付加価値の向上と雇用確保の必要性	9
(6) 積極的な情報発信の必要性	9
2-2 マネジメントサイクルの確立	10
(1) 計画策定(Plan)	10
(2) 推進(Do)	11
(3) 点検・評価(Check)	11
(4) 改善(Action)	11
2-3 3つの重点プロジェクト	12
(1) 今別町総合戦略重点プロジェクトの概念	12
(2) 重点プロジェクトの考え方	13

3 重点プロジェクトと主な施策

3-1 社会減対策	15
◎ また訪れたいまち促進プロジェクト	16
◎ 住みたいまちオンリーワンプロジェクト	17
3-2 自然減対策	19
◎ みんなで創る健康生き生きタウンプロジェクト	20

【参考資料】

1 将来展望に関連するアンケート調査結果の概略	21
◆ 今別町 キッズコメント調査(抜粋)	21
◆ 今別町 子育て世帯支援制度調査(概要)	30
2 今別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 体制図	34

1 基本的な考え方

1-1 趣旨

この総合戦略は、今別町民が津軽半島の豊かな自然の恵みを受け継ぎ、町で暮らすことに幸せと誇りを感じながら、人口減少や少子高齢化という急速な社会情勢の変化に対しても、町の独自性と持続性を発揮できるよう次世代に向けて、次の3項目についてまとめたものです。

- ① 目指す町の姿(将来像)やまちづくりにおける理念
- ② 中期的な施策の基本的方向
- ③ 基本的方向を実現するための具体的施策

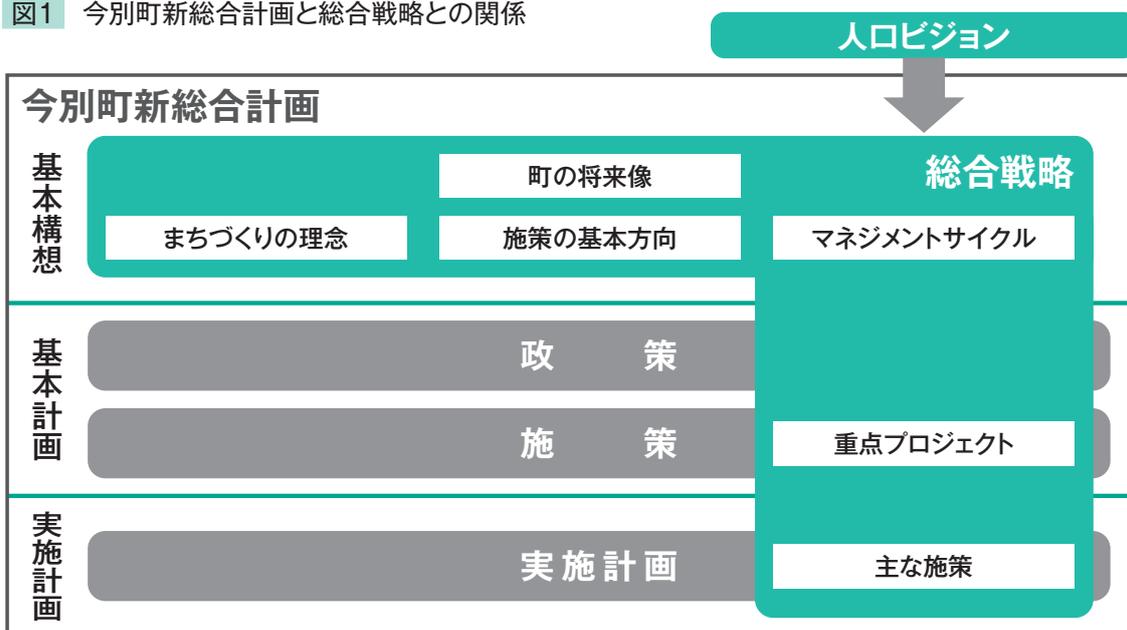
また、町民、団体、企業、行政など町全体で共有して推進する公共計画として位置づけるものです。

1-2 総合戦略の位置づけ

平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、翌月には国の指針である「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生戦略」が策定されました。青森県においても平成27年8月に「まち・ひと・しごと創生 青森県総合戦略」及び「まち・ひと・しごと創生 青森県長期人口ビジョン」が策定されています。

本総合戦略は、これら国と青森県の指針を勘案し、今別町の人口の現状と将来展望を踏まえて人口減少対策の視点から基本構想及び具体的な実施プランを示すとともに、同時並行して策定されている「今別町新総合計画」の下位計画として位置づけます。

図1 今別町新総合計画と総合戦略との関係



1 - 3 計画の前提となる社会背景

今別町は、青森県津軽半島北端の中央部に位置し、南西は中山山脈を境に五所川原市(旧市浦村)、東部は外ヶ浜町平館、西部は外ヶ浜町三厩、南部は外ヶ浜町蟹田に隣接し、北部は津軽海峡に接し、津軽海峡を隔てて北海道に面しています。古くから豊富な水産資源を中心とした漁業により発展してきました。

1964年から青函トンネルが青森県側で着工した工事に携わる人員が増加し、津軽半島の活性化が促されていました。また主要地方道鱒ヶ沢蟹田線の改良により、経済的な依存度合いの高い青森市との交通の便も向上しました。1988年にはJR東日本とJR北海道とが連絡する津軽海峡線の開業に伴い、北海道道南地域との時間的距離が大幅に短縮され、東青地域における今別町の役割も変化してきました。

しかし一方では、青函トンネルの工事が完了したことにより、津軽半島北部から急激な人口減少が生じるとともに、長期的にも人口減少や少子高齢化が続いています。そのため今別町では人口減少に伴う地域コミュニティの崩壊と空き家の増加、福祉制度や医療体制に対する不安、核家族化や価値観の多様化による人の繋がりの希薄化など様々な問題を抱えており、従来の考え方や手法では解決できない課題が増えてきています。

なかでも、高齢者比率は48.40%と青森県内でも2005年度から10年連続^{*1}して最も高い自治体となっており、対策は喫緊の課題となっています。

これらの課題を解決するためには、長期的な展望を基に町全体で課題を共有し、町民が幸せと誇りを感じられるまちづくりのための実効性のある施策に取り組んでいくことが必要となります。

1 - 4 計画期間

2015(平成27)年度から2019(平成31)年度までの5年間とします。

1 - 5 計画人口

「今別町人口ビジョン」における人口の将来展望を踏まえ、計画期間内での取り組み成果を見込み2,469人とします。

※1 出典：平成26年度「青森県高齢者人口等調査」(青森県高齢福祉保険課)

1 - 6 町の将来像

竜飛岬や津軽国定公園など奥津軽の玄関口となる北海道新幹線駅「奥津軽いまべつ駅」があり、海産物も豊富な津軽海峡により自然豊かな中山間地域に生活しているという今別町の特徴を活かし、景観・自然との調和が町民の誇りとなるまちづくりを推進するために、目指すべき町の将来像を、

「みんな生き生き 健康長寿 奥津軽いまべつタウン」

とし、その実現を目指して着実な推進を図ります。

1 - 7 県・市町村間の連携

人口減少が続く時代にあって、本総合戦略の取り組み効果を最大限に発揮するためには今別町だけではなく近隣市町村及び県との緊密な連携を図ることが重要になります。

青森市をはじめとする東青地域の関係市町村で構成される「青森地域ふるさと市町村圏」での役割を果たし、連携しながら、行政サービスの補完と充実を図るとともに、自らの地域資源を活用することで今別町独自の価値観を探求し、町民が心豊かに、安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

また、青森県が促進する各種の取り組みについて、今別町の地域的価値を向上させるものについては積極的に連携・支援し、広域的な視点からも豊かなまちづくりを進めます。

1-8 3つのまちづくり理念

本戦略と同時並行して策定された「今別町新総合計画」で掲げられた以下の3つの理念を踏まえ、人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても、町民が魅力を感じ、誇りが持てる持続可能なまちづくりに取り組みます。

(1)「地域資源を活かし、交流促進でにぎわいを創出するまち」

津軽海峡に面し、奥津軽に息づくこれまでの歴史や豊かな自然の中で生きる町民の知恵を尊重するとともに、新たな交通の要衝という新旧の地域資源を大切にし、自然とひととの交流と調和のとれた持続可能なまちづくりを目指します。

① 海・山の自然資源の活用

今別町では、第一次産業が基幹産業となっており、漁業・農業の既存資源の活用・PRを推進することにより町民の所得向上を図り、安定的な産業の振興につなげる必要があります。

農業においては、経営規模の小さい農家が多く、後継者不足と高齢化のため今後、耕作放棄地等が増加する恐れがあり、持続的に経営するためには、生産だけにとどまらず、加工も視野に入れた6次産業化による付加価値の向上を図るなどの対策が必要となっています。

漁業では、津軽海峡沿岸で小規模漁業を営む漁業者が中心ですが、魚介類・海藻類等の水産資源が減少し、不振が続いています。また高齢化の進行により、漁業者の減少が続いています。そのため、今後は、栽培漁業の促進と漁具・漁法の近代化、加工による付加価値化を図り、水産資源の管理と利活用を促進します。

近年、畜産業において「いまべつ牛」のブランド化を進めるなど、第一次産業の高付加価値化を意識した動きもあり、町のイメージや取り組みをPRするためにも積極的に支援し、定着を促進します。

② 観光・文化的資源による交流の促進

今別町には観光・文化的な地域資源が存在します。広域観光の玄関口となる観光資源「奥津軽いまべつ駅」や、江戸時代より伝わる「荒馬」・「ねぶた」、スポーツによる交流など文化的資源を活用することで、豊かな自然と文化を世界に発信するとともに、各施設の整備やサービスを拡充・洗練して“おもてなし”を提供し、今別町を訪れる人にその豊かさを体験していただき、交流を通じて町の活性化に資するよう取り組みます。

③ 町民との協働によるまちづくり

人口減少や少子高齢化など様々な課題に町の総力をあげて対応するため、情報の共有や意見交換による学びの機会を通じて、町民、地域、団体、企業、行政などがそれぞれ主体性を持って、新たな価値観の創出や課題解決に向け取り組みます。

(2)「産業を振興し、将来を担うひとを育み、安心して暮らせるまち」

昨今の経済動向の変動や少子高齢化・過疎化の進展においても、町民生活の安定とにぎわいを持続し、豊かな自然資源を活用したまちづくりを進めます。そのためにも地域の基盤となる産業と人財を育成し、定住の促進を図ります。

① 定住促進に関する基本的な考え方

今別町は人口減少割合が高く、2010年国勢調査では総人口が1980年比でおよそ45%に減少しています。生産年齢人口の減少が大きく、今別町人口ビジョン推計では高齢化率の上昇も今後しばらく続くものとみられます。

こうした状況に対応するため、地域産業の振興と定住の促進が必要となっています。なかでも若者の定住に向け取り組みます。

② 就労環境の整備に関する基本的な考え方

定住を促進するためには生活環境の整備と同様に、今別町の強みを活かした産業の振興を併せて行う必要があります。

特に一次産業力の強化は今別町の基幹産業を維持・発展するために重要であり、農地の確保等により定住者への就労環境の整備と、若者の就業促進に取り組みます。

③ 交通網の整備に関する基本的な考え方

県都である青森市と今別町は海沿いの国道280号ではおよそ65kmの距離があります。国道280号から外ヶ浜蟹田で分岐し、県道14号(主要地方道 今別蟹田線)を通じて今別町中心部に至る道のりでは距離がおよそ55kmと10km短くなりますが、途中小国峠があり、冬季の往来には注意が必要です。

平成28年3月に開業する北海道新幹線は今別町に新駅を開業し、新たな人の流れにつながると予想されます。県道14号は「奥津軽いまべつ駅」に接しています。通年で観光需要を開拓するには二次交通の充実とともに、道路の整備についても考慮しなければなりません。また主要道路として経済的、文化的にも大きな役割を担っています。高齢者には通院等の需要もあり、利便性の確保が重要となっています。

また「奥津軽いまべつ駅」開業によって町外の交流が促進されると共に今別町から青森市へ通勤する利便性が向上するものと期待され、今別町が青森市圏域のベットタウンとして発展していく可能性があります。

こうした背景から、地域の持続的な維持の重要な要素として交通の確保に取り組みます。

④ 土地・空間利用の基本的な考え方

町の一方は津軽海峡に面し、他方は山間地に面しており、ほとんどが傾斜地で平地部が少ないという地勢事情があります。このため、大規模には場を整備することが困難ですが、第一次産業の維持・発展のため、耕作放棄地の集約・利活用などに取り組みます。

一方、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」周辺では交流人口の拡大を目指し、ひとが集まる施設の設置など、土地・空間の利活用に集中して取り組みます。

⑤ ICT^{※2}環境の整備の基本的な考え方

総務省2011年度末調査によると、青森県におけるインターネット利用率(個人)は、65.7%で全国最下位です。

今別町では2010年に全町に光ファイバーが整備されており、観光や地場産品情報はもとより、今後ますますICT活用の場面が増えていくことが想定されます。町外からの交流人口の増加を目指すためだけでなく、高齢者に遠方との交流を促すことにも重要な手段となっていくと思われれます。また近年、海外からのインバウンド^{※3}の取り込みには外国人でも利用しやすい携帯端末通信の無線通信インフラ(Wi-Fi^{※4}ステーション)の整備が国を挙げて進められています。

こうした動きに対応し、通信環境の整備と町民のICTスキル向上に向け、時代にあったまちづくりに取り組みます。

※2 ICT：情報通信技術

※3 インバウンド：外国人の訪日旅行のこと

※4 Wi-Fi：無線によるインターネット接続技術の一つで、普及率の高い方式

(3)「みんな生き生き、お年寄りと子供にやさしいまち」

少子化対策と高齢化対策を通じて、小さな町であることを利点とし、施策の選択と集中に努力しながら町民の暮らしに安心と活力を与えるまちづくりを進めます。

① 地域福祉に関する基本的な考え方

今別町は高齢化率が高く、今後も高齢者福祉サービスに対する需要の多様化と高まりが予想されます。

家庭環境も多様化し、高齢化に伴い経済的弱者の増加に対応していく必要があります。

そこで、健やかで生きがいのあるまちづくりに向けて総合的な健康づくり体制の確立、地域福祉体制の整備等の施策を進めていきます。特に将来的な要介護認定者数の増加を考慮し、認知症などを予防して平均寿命の延伸に取り組みます。

② 地域医療に関する基本的な考え方

今別町の医療機関は、国民健康保険今別診療所(1か所)、開業医(1か所)、歯科医院(1か所)、接骨院(1か所)があり、人口に比較して医療機関はほぼ充足しています。一方で、専門医については青森市内の専門医療機関に依存しています。

これまでも今別診療所では医師の確保や医療設備の充実を図り、地域医療を推進してきましたが、高齢者が今後ますます増加傾向となるため、財政負担の軽減を図るとともに住民の健康増進のため、病気を未然に防ぐ健康指導等の予防医療へ取り組みます。

また、患者の同意のもとに診療情報の共有化(医療機関との連携)や医療・福祉との連携で効率化と充実を図り、最適な医療を提供するとともに、周辺市町村と連携して医療体制の確保に取り組みます。

③ 子育て支援に関する基本的な考え方

今別町では、乳幼児については2005年に社会福祉法人三笠苑により「今別保育園」が設置運営されています。児童についても放課後に自然に親しみながら安心して遊べる場所を確保するなど努める必要があります。

また、乳幼児・児童の医療費の給付や給食費・保育料の軽減、インフルエンザ予防接種費用の助成、妊娠や産後の健康診断費用の支援などを通して子育て世帯の経済的負担から生じる不安を除き、安心して子育てできるように努めています。

今後も出生率の低下が続くと予想されており、多様化するニーズに対応し、保育・児童福祉サービスを充実させるために保育・教育機関と連携し、地域社会全体で支えることで、今別町の次世代の育成に取り組みます。

2 重点プロジェクト策定の方向性

2-1 プロジェクト策定の背景

(1) 人口減少と少子高齢化社会の進行

日本の人口は、平成22年の国勢調査から減少に転じ、特に団塊の世代を中心に、急激な速さで人口減少や少子高齢化が進むと予測されています。

今別町においては、1980年にはすでに人口減少が進んでおり、年齢階層別の推計では、老年人口は2010年と比較して2015年にはすでに減少が始まっており、年少人口、生産年齢人口ともに右肩下がりで減少を続ける人口減少の最終段階である第3段階に達しています。

(2) 基幹産業である一次産業の衰退

平成22年の国勢調査によると、町の基幹産業である漁業は、就業者の年齢が男性では50歳以上が90%を上回り、女性の就業者も30歳以上に限られている状況のため、今後、急激な担い手不足が予測されます。女性の就業者数が多い医療・福祉でも29歳以下の就業者数が10%を下回り、担い手不足になる恐れがあります。

農業でも耕作放棄地による荒廃などが進行しており、一次産業の衰退による各種の問題が生じています。

新規就漁支援や就農支援などの施策により、若年者や移住者による一次産業の復興が喫緊の課題です。

(3) 住環境として選ばれる地域づくりの必要性

移住者が定住を決めるポイントは、その地域に暮らす住民の人柄などの人的環境、安心して暮らすための医療や福祉、教育、買い物、自然・気候などの住環境、生活コスト、情報通信インフラなど、社会の成熟化にともなって価値観が多様化しています。

国内人口の減少が予測される中、今別町が移住先として選ばれるための環境整備が重要となっています。

(4) 環境にやさしいまちづくりの必要性

今別町には津軽国定公園の一部として明媚な海浜が続いています。この豊かな海の環境を保全することは、基幹産業である漁業や観光産業に大きな影響を与えます。また、近年の食品に対する安心・安全志向は第一次産業のブランド化が重要な視点となっています。そのため、海の汚濁や農地・牧草地の荒廃を防止し、景観を守るとともに、新たな産業の確立や、観光地としての資源開発の両立を図らなければなりません。

また、社会的な要請から環境負荷の低い再生可能エネルギーの利活用を行い、まちづくりの視点から環境保全へ取り組むことも重視される時代となっています。

(5) 付加価値の向上と雇用確保の必要性

人口が全国的に減少するなか、東京など一部の大都市へは依然として人口が集中しています。そのため、消費ニーズも大都市圏を中心としたものになっており、販路の確保が重要となります。

販路を拡大するためにも今別町の地域資源の素晴らしさを適時・適切に情報発信し、特産品の価値の高さを消費者に理解してもらい取り組みが必要となります。

消費者のニーズをいち早く反映するなど、特産品を経営的視点から商品を考え、町民の創意工夫の実効を高め、更なる産業力の強化を図る必要があります。

そのためにも、今別町内外の支援機関との連携や、専門家によるアドバイスなど外部人材も活用して付加価値の高い商品・サービスを提供し、雇用を確保することが重要となっています。

(6) 積極的な情報発信の必要性

豊かな自然資源は維持と同時に利活用し、消費者や観光客にその良さを理解してもらえなければ価値を生じません。そのためには今別町の住み心地の良さ、海の幸・山の幸のおいしさなど、他の町と違う独自性を理解してもらうための積極的な情報発信が必要です。

『また訪れたい』と思ってもらえるためには、今別町の特徴をアピールする、おもてなしや町民の温かさ、特産品に携わる町民の顔が見えるような商品の情報が大切です。ほかにも訪問客の携帯端末やSNS^{*5}による口コミ情報を意識した分かりやすい町の情報発信の仕組みづくりや情報通信インフラの整備が重要となります。

また増加傾向にある外国人旅行者を取り込む“インバウンド”には、情報にアクセスしやすい環境が重要なポイントになっており、より積極的な情報の発信とアクセス環境の整備が重要です。

*5 SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)：インターネットによる情報共有サービス

2-2 マネジメントサイクルの確立

本総合戦略における取り組み及び効果を検証し、管理するには「マネジメントサイクル」を確立する必要があります。マネジメントサイクルはPDCAサイクルともいわれ、Plan（計画策定）、Do（推進）、Check（点検・評価）、Action（改善）の取り組みを循環して継続的に実施する方法です。

例えば、あるプロジェクトや計画を推進するためには、まずは、①計画(P)を立て、②次にその計画(P)を基にプロジェクト(事業)を推進(D)します。③その推進(D)の状況を点検・評価(C)し、問題が発見されれば、計画を見直して④改善(A)により問題点を克服し、再度計画(P)を実施するという一連の流れを繰り返します。この、P→D→C→Aを繰り返し回していくことから、PDCAサイクルと言われます。

今別町総合戦略で計画された各施策については、評価指標となる重要業績評価指標(KPI^{※6})を設定し、このPDCAサイクルにより施策目標の達成度を検証していくこととなります。

(1) 計画策定(Plan)

今別町総合戦略の策定においては、市内の各課代表者から組織された「今別町まち・ひと・しごと創生推進部会」と、「今別町まち・ひと・しごと創生推進本部」が連携して立案・検討・策定を行い、産、官、学、金で構成される「今別町まち・ひと・しごと創生推進会議」が施策の助言、審議を行った上で策定したものです。

なお、総合戦略の内容については、上位の計画である「今別町新総合計画」や、今回策定された「今別町人口ビジョン」の将来の人口推計を踏まえ、「キッズコメント調査」、「子育て支援制度アンケート調査」から、町民の声を反映させた戦略として策定しています。

また、青森県が策定した「まち・ひと・しごと創生青森県長期人口ビジョン」、「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」と、国のまち・ひと・しごと創生「長期人口ビジョン」、「総合戦略」について、県や国における基本的な方向性などの整合性を合わせた上で、「今別町総合戦略」をまとめました。

※6 KPI：Key Performance Indicatorの略

(2) 推進 (Do)

策定された総合戦略を多様な媒体を通じて、幅広く情報発信するとともに、各分野において関連する地域、団体、企業、行政が共同した推進体制を構築して計画を実施します。

また、選択と集中を行う重点分野を明確にすることで期間内における優先順位を明確に示し、町の総力を挙げて重点分野に取り組むことで高い実効性を確保し、推進力を高めます。

計画実施は「今別町まち・ひと・しごと創生推進本部」が行います。

(3) 点検・評価 (Check)

点検・評価は、「今別町まち・ひと・しごと創生推進会議」が総合戦略策定後も検証機関として、継続して組織されます。

これら検証は毎年度末ごろに推進検証会議を開催して行われます。

(4) 改善 (Action)

検証会議では、必要に応じて次年度以降の計画の修正や策定が再度行われたうえで、推進本部により検証後の計画が実施されます。

2-3 3つの重点プロジェクト

行政サービスの質と量を充実させるには重点的に町の人的・経済的資源を投入する必要があります。しかし、どちらにも限りがあり、バランスを確保しながら実効性と高めていく必要があります。

そのためにも着実な達成に向けて課題を効果的に解決するため、施策の必要性やその効果を検討したうえで、選択と集中による取り組みが重視されます。

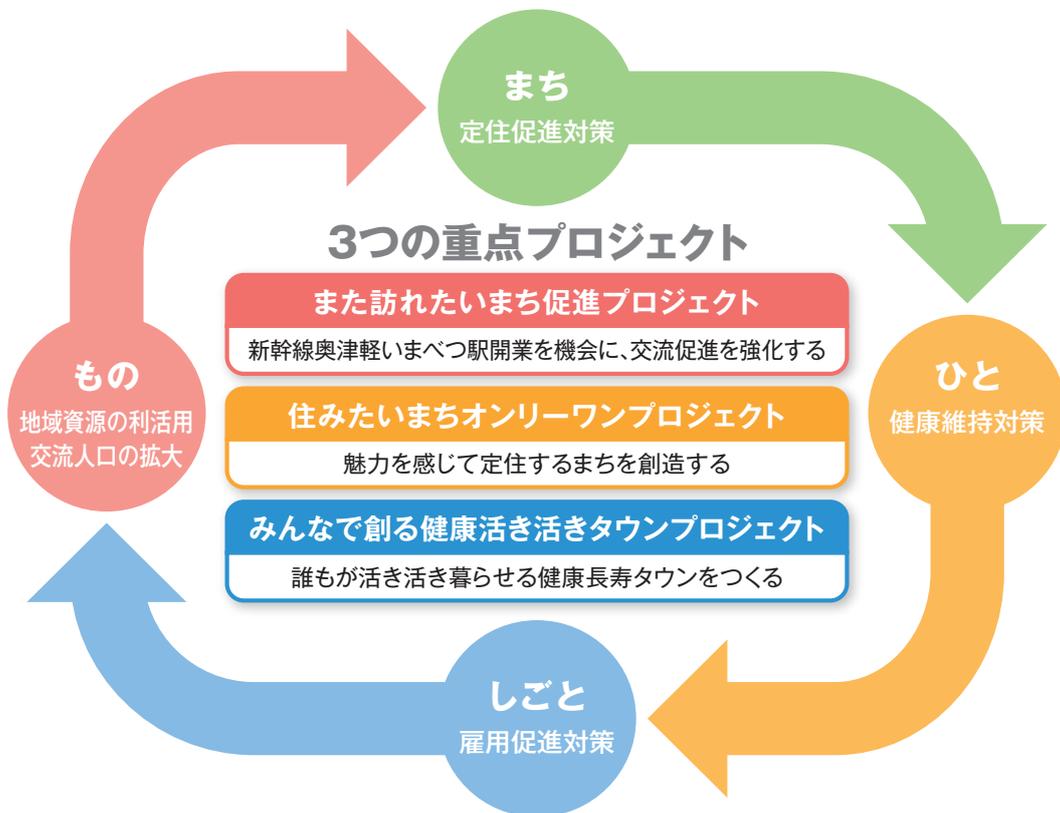
また、人口ビジョンの推計結果による将来の人口減少の傾向と住民に対するアンケート等により住民ニーズを検討し、人口減少の抑制に向けた総合戦略の「概念」と「3つの重点プロジェクト」を決定しました。

(1) 今別町総合戦略重点プロジェクトの概念

今別町の人口減少抑制に向け、「まち」、「ひと」、「しごと」、「もの」の各分野に対して、「定住促進対策」、「健康維持対策」、「子育て支援対策」、「雇用対策・地域資源活用」、「交流人口の拡大(観光)」の5つの施策の柱を設定し、その実現のため、「また訪れたいまち促進プロジェクト」、「住みたいまちオンリーワンプロジェクト」、「みんなで創る健康生き生きタウンプロジェクト」の3つの重点プロジェクトに取り組みます。

また、町民の情報共有や町を訪れる人の利便性向上のため、ICTを活用した施策についても併せて推進します。

図2 重点プロジェクトと戦略分野の関係



(2) 重点プロジェクトの考え方

3つの重点プロジェクト(図2)の分野は総合戦略における基本目標であり、地域を維持する経営資源(予算等)の配分を優先することで行政サービスの質の確保を徹底する原動力となり、行政、町民、企業や関係団体が連携して一丸となり取り組む体制の構築を目標としたものです。

本戦略で描く将来像を実現するためには、すべての施策を画一的に実施することは困難であり、着実な成果を達成できません。そのため、「まち」・「ひと」・「しごと」・「もの」に横断する課題を解決するために必要性、重要性を考慮したうえで計画期間の5年間で重点的に取り組む施策群(重点プロジェクト)の優先順位を明確にする必要があります。また、本戦略が目的とする人口減少への対応には、出生率の向上と平均寿命の延伸を図り、人口減少に歯止めをかけることで将来的な人口構造そのものを変えていく「積極戦略」と、我が国全体で進行する人口減少自体を受け入れつつ、人口減少社会に向けて効率的かつ効果的な社会システムの再構築を行う「調整戦略」とをバランスよく進めていくことが重要となります。

「積極戦略」では主に子育て、出産・結婚などを増やし、地域の若返りと町民の健康増進により長寿を図っていく「**自然減**」への対策、「調整戦略」では主にひとの流れを創造すると共に、地域内での就業を促進し、人口流出の抑制とUターンや移住による「**社会減**」への対策となります。

本重点プロジェクトでも選定基準として、これらの要素を重点に国の指針及び青森県の指針を参考として、今別町の実情に沿った4つの施策の基本方向を設けました。

4つの施策の基本方向

① 社会減対策

今別町への新しいひとの流れをつくること
できる施策であること

地域の活性化にはひとの流れをつくり、新たな地域づくりに活かすことが重要です。今別町では豊かな水産資源をもたらす津軽海峡を有し、奥津軽観光の重要拠点としての役割もあり、積極的なひとの流れを創造することが期待できます。

② 社会減対策

今別町における安定した雇用を創出できる
施策であること

安定した雇用はその地域で持続的な生活基盤を形成する必須の要素であり、流出した住民のUターンを促すにも、新たな移住者を受け入れるためにも産業の活力を高めていく必要があります。今別町の役割としては基幹産業の維持・振興と、機会をとらえた新産業の育成による雇用の創出・確保を積極的に取り組むことが重要です。

③ 自然減対策

今別町に暮らす若い世代の結婚・出産・子育ての
希望をかなえる施策であること

若い世代も結婚や出産、子育てを通して豊かな人生を送っていきたく願っています。高齢化率の高い今別町では若い世代が経済的に自立し、結婚して「子どもを持ちたい」という希望をかなえることが大変重要になっています。今別町では、そうした若い世代の希望をかなえ、子どもの笑顔があふれるまちづくりを目指します。

④ 自然減対策

町民の健康を守り、安心して年齢を重ねることが
できる暮らしを提供できるものであること

青森県では40以上の死亡率が全国平均よりも高く、全国で最も平均寿命が短い自治体となっています。町民が生き活きと暮らすには、健康を維持し、安心して長寿を目指せる生活環境の整備が重要となっています。介護に頼らず自立して壮健に生活できるよう、きめの細かい健康への目配りと、地域と共に高齢者を見守り、安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

3 重点プロジェクトと主な施策

3-1 社会減対策

現状と課題

人口減少は全国的に進んでおり、特に地方では地域から都市部への人口流出が顕著です。今別町においては、1980年にはすでに人口減少が進んでおり、特に生産年齢人口の流出が続いている状態です。そのため、基幹産業である漁業が衰えつつあります。

一方、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」が開業することにより、津軽半島の交通の利便性が高まることなどが期待されており、機会を最大限に活かすために、新しいひとの流れを創出し、関連する産業を育成することがますます重要となっています。

また、一時的なひとの流れだけではなく、移住者から選ばれる地域となるためにも町民が安定的に暮らせるよう、生活基盤となる産業の創出と活性化も同時に行うことが重要な課題となっています。

図3 重点プロジェクトと戦略分野の関係



出典:農林水産省 海面漁業生産統計調査 農林水産関係市町村別統計より作成

◎また訪れたいまち促進プロジェクト

1.基本目標

- ・新幹線奥津軽いまべつ駅開業を機会に、交流促進を強化する

○数値目標

指標	数値目標
観光入込客数	5年間(延べ) 75万人
奥津軽いまべつ駅利用者数	5年間(延べ) 15万人

2.施策の基本方向

- ・今別町への新しいひとの流れをつくることのできる施策であること

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標(KPI)
海峡の家 利用促進事業	滞在型観光の拠点となるよう「海峡の家」を整備し、利用者数を拡大する。	海峡の家 利用者数 5年間累計 2,000人
修学旅行誘客 強化事業	修学旅行(小規模校)を対象に、集客力を強化する	修学旅行生 集客件数 5年間累計 3件
文化スポーツ 交流促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック選手合宿等の誘致を行う。 ・文化資源である郷土芸能「荒馬」やスポーツ交流等による交流人口拡大を推進する。 	文化スポーツ交流者数 5年間累計 10,000人
スポーツ交流施設 整備事業	スポーツ交流施設を整備し、交流人口の拡大を推進する。	5年間 0件 → 1件
おもてなし応援隊 事業	再訪問客数拡大を目的に「おもてなし応援隊」を組織する。	5年間 15人 → 20人

◎住みたいまちオンリーワンプロジェクト

1.基本目標

- ・魅力を感じて定住するまちを創造する

○数値目標

指標	数値目標
空き家再利用件数	5年間累計 5件
町外からの定住者	5年間累計 10人

2.施策の基本方向

- ・今別町への新しいひとの流れをつくることのできる施策であること
- ・今別町における安定した雇用を創出できる施策であること

※“ひとの流れ”には留まり定住するひとの流れと、観光により地域を経験・体験するひとの流れがあるため、定住関連である“留まり定住する人の流れ”については「また訪れたいまち促進プロジェクト」から本重点プロジェクトとして分離しました。

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
一次産業環境整備推進事業	一次産業力強化のため、就労環境整備を推進する。	ほ場の整備 5年間累計 40ha
若者向け住環境整備事業	定住促進住宅及び空き家の利活用による若者向け住環境を整備する。	・空き家バンク登録件数 5年間累計 0件 → 10件 ・若者向け定住促進住宅の整備 5年間累計 5戸
いまべつ牛振興強化事業	いまべつ牛の肥育頭数を拡大し、消費者への供給力を強化する。	いまべつ牛肥育頭数 16頭/年
地場産品商品力強化事業	地場産品(いまべつ牛、モズク、アワビ、ナマコ等)を二次加工し商品化を目指す。	地場産品加工品の商品化数 10品
町アドバイザー設置事業	まちづくりに関するアドバイザーを招聘し、まちづくりの促進を図る。	町アドバイザーの設置 5年間累計 2人

4. その他関連する施策

- **福祉生活支援事業**

低所得者への経済支援を継続拡充する。

- **新規就農サポートセンター事業**

東青地域市町村が連携し、新規就農者の掘り起こしと定着を図るためのサポートセンターを設立し、支援することで新規農業移住者の拡大を図る。

- **ビジネス交流拠点設置事業**

東青地域市町村が連携し、首都圏で販路開拓をするための「ビジネス交流拠点」を設置する。

- **いまべつ牛販売促進連絡協議会事業（平成27年度継続事業）**

いまべつ牛を販売促進する連絡協議会の活動に補助を行う。

- **漁業種苗放流事業（平成27年度継続事業）**

栽培漁業を促進するため、稚魚の放流事業に対し、補助を行う。

- **消費喚起プレミアム商品券発行事業（平成27年度継続事業）**

地元消費を喚起するため、プレミアム商品券を発行する事業に対し、補助を行う。

- **街なか商店街賑わい創出事業（平成27年度継続事業）**

町内の商店街の魅力を向上させる事業に対し、補助を行う。

- **荒馬の里「大売出し」事業（平成27年度継続事業）**

「荒馬の里活性化センター」で地元産品を販売する事業に対し、補助を行う。

- **地場産品消費拡大事業（平成27年度継続事業）**

地元産品の消費を喚起するため、販売促進を行う事業に対し、補助を行う。

- **地場産品等消費拡大のための雇用拡大事業（平成27年度継続事業）**

地元産品等の販売促進を通して雇用拡大を図る事業に対し、補助を行う。

3 - 2 自然減対策

現状と課題

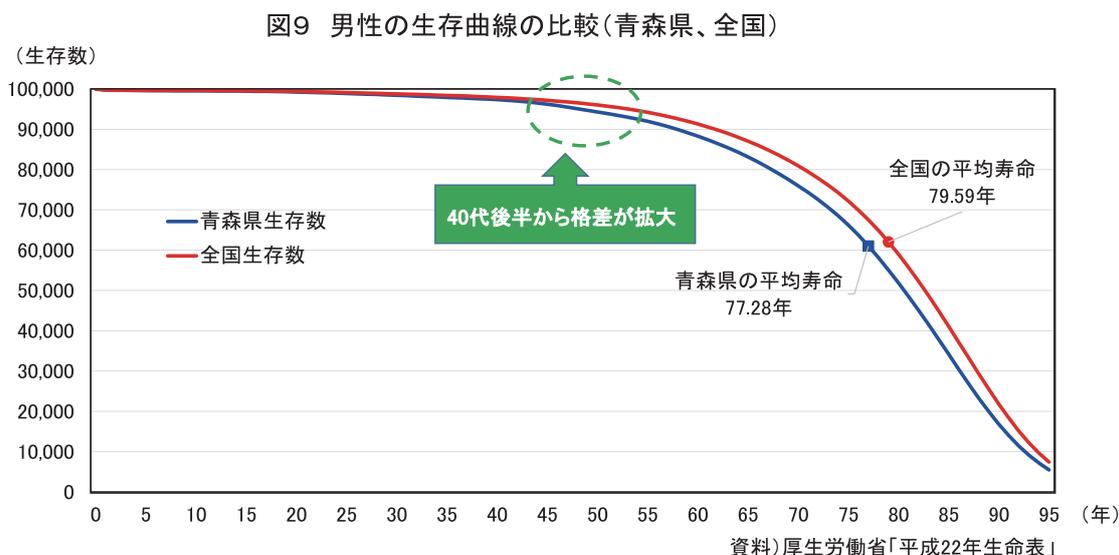
我が国は全国的に「人口減少社会」に突入しており、今別町では年齢階層別に老年人口の減少が始まっており、人口減少の最終段階である第3段階^{※7}に達している推計となっています。

青森県では平均寿命が全国で最下位となっており、40～50代の働き盛りの死亡率が高いとされています。

若者も景気動向や地域産業の衰退、経済的負担の増加、共働きの育児環境の未整備といった要因から、結婚や出産・育児に消極的になっており、少子化も進んでいます。

このため、働き盛りの生活習慣病を予防し、高齢者が介護に頼らず生き生きと健康に暮らせる環境を整備することによる人口減少の抑制と共に、若者の子育て世帯を積極的に支援し、人口構造の転換を推し進めて地域の活力を維持することが課題となっています。

図4 男性の生存曲線の比較



出典:「まち・ひと・しごと創生 青森県長期人口ビジョン」 P.6

※7 第3段階: 人口の減少には3段階あり、①若年総人口は減少するが、老年人口は増加する「第1段階」、②老年人口が維持・微減する一方、若年人口の減少が加速化する「第2段階」、③若年人口も老年人口も減少する「第3段階」と進みます。第3段階は人口減少の最終段階とされています。

◎みんなで創る健康生き生きタウンプロジェクト

1.基本目標

- ・誰もが生き生き暮らせる健康長寿タウンをつくる

○数値目標

指標	数値目標
住民健診受診率	27% (平成26年) →45% (平成31年)

2.施策の基本方向

- ・今別町に暮らす若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策であること
- ・町民の健康を守り、安心して年齢を重ねることができる暮らしを提供できるものであること
- ・町民一丸となり、生活習慣病の予防を実践し、平均寿命の延伸を図るための施策であること(平成22年 男性：77.3歳、女性：85.9歳)

3.具体的な施策と重要業績評価指標

具体的な施策・事業	内容	重要業績評価指標 (KPI)
新幹線通学補助事業	新幹線通学者がいる世帯への経済的支援を実施する。	新幹線通学補助者 5年間累計 75人
子育て世帯応援事業	保育料軽減、給食費補助等、子育て世帯への経済的支援を継続・拡充する。	対象世帯数 70世帯/年 (保育料軽減は平成27年度継続事業)
住民健診受診促進事業	町診療所を中心に、住民健診受診者を拡大する。	住民健診受診率 27% (平成26年) →45% (平成31年)
頭の健康スクリーニング事業	認知症の早期発見、早期予防相談により、高齢者の平均寿命を延伸する。	参加者数 5年間累計 100人
住民見守り・情報共有システム事業	子供・高齢者を中心に、見守り及び関係する他職種の情報共有システムを整備し、安心して暮らせるまちづくりを推進する。	システム登録者数 5年間累計 100人

【参考資料】

1. 将来展望に関連するアンケート調査結果の概略

これまでも今別町では、行政サービスを充実させ、住民の満足度を向上させるために、町民に対して各種の調査を行ってきました。

この参考資料は、総合戦略に町民の声を反映するための重要な検討資料として掲載しています。

◆今別町 キッズコメント調査(抜粋)

実 施：平成27年11月

調査対象：町内在住の小学4年生～小学6年生

調査方法：学校を通した配布・回収

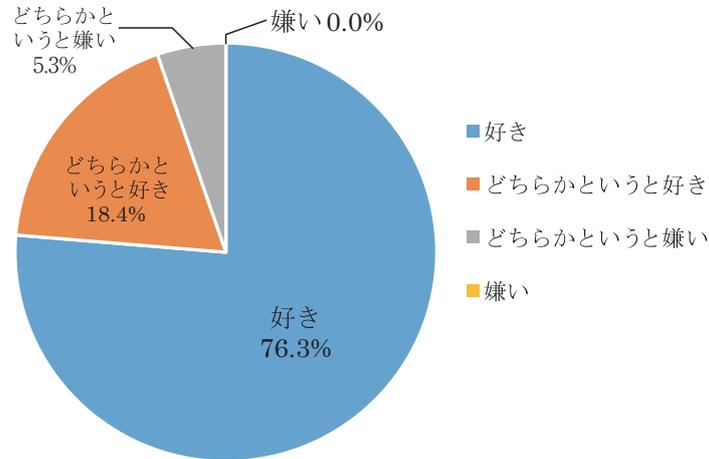
概 略：

この調査は、「今別町総合戦略」を策定するにあたり、次世代を担う今別町の子どもたちに町への愛着を聞くとともに、今別町とはどのような町なのか、普段身の回りにある地域性について考えてもらう趣旨により行われました。また、『町長さんになったら、どのようなことをやってみたいか』という問いを設けることで、子どもながらの価値観によって全く新しいまちづくりへのイメージが生まれぬかという期待も含んでいます。

調査の結果からは、今別町で暮らす子供たちは今別町に愛着を持っており、豊かな自然に価値観を感じている児童が多いことが分かりました。

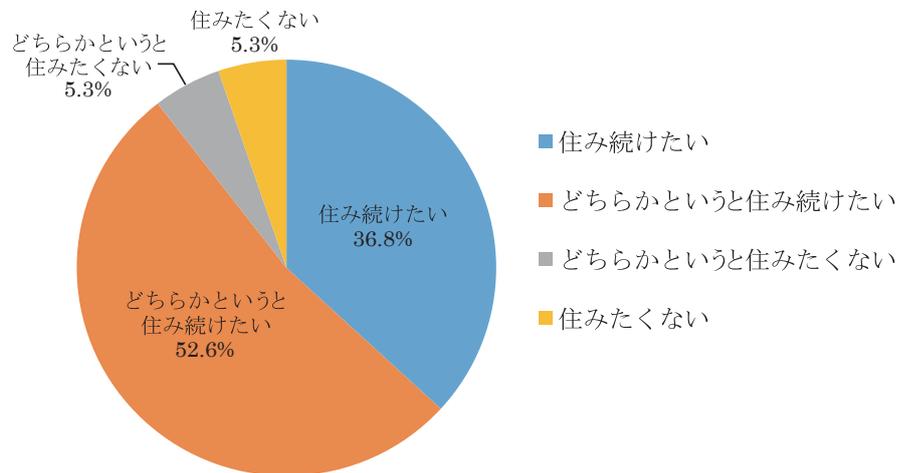
子どもたちが描く町の将来像としては、これまでと同様に自然が豊かなままでいてほしいという願いが感じられる結果となりました。また商店が少ないことを不満に思っており、町を活性化するにはイベントが効果的であると考えていることがうかがわれます。

問1 あなたは、今別町のことが好きですか？



「好き」もしくは「どちらかという好き」で94.7%となりました。子どもたちは自分の地元に愛着を持っているようです。

問2 あなたは、今別町にずっと住み続けたいですか？



多くは「住み続けたい」または「どちらかという住み続けたい」で、合計89.4%となりましたが、各学年で「どちらかという住みたくない」または「住みたくない」という回答があったため、問1と比較して定住の意思が若干低下しています。

問3

おすすめの観光スポットやお気に入りの場所を教えてください。
(今別町でお気に入りの風景や場所・施設など、町内のもの)

最も多かった回答は、「高野崎」となりました。津軽国定公園袈月海岸の中心部にあり、キャンプ場もある場所で、晴れた日には北海道が望めます。次に「ふれあい文庫」(今別町役場町民ふれあい文庫)でした。役場近くにある町の教育・文化施設です。子ども向けの書籍などもあり、児童の利用も多い施設です。今年度、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業に向けてリニューアルされた道の駅「アスクル」も新たな町の玄関口として期待されています。

その他には、「近くの山の畑から見る海の景色と、家から外へ出てみる山の景色がお気に入りです」(4年生・女子)といったおすすめがありました。

観光スポット・お気に入りの場所	回答数(件)
高野崎	14
ふれあい文庫	11
道の駅アスクル	6
青い公園	5
だるま滝	2
海	2
なもわ〜も	1
奥津軽いまべつ駅	1
公民館	1
開発センター	1
ほろづき	1
寺	1
三厩の海水浴場	1
その他	1

問4

おすすめの食べ物・山菜、料理、お土産を教えてください。

(今別町で採れるお気に入りの食べ物や、青森・今別町だけの料理、
今別町のお土産など)

最も人気を集めたものは「もずくうどん」でした。もずくが練りこまれており、もずくが採れる今別町ならではのうどんです。

2位はあづべ汁でした。あづべ汁は今別町でお正月に食べられる郷土料理で、食材をあちこちから「集める」が“あづべ”の語源といわれています。

食べ物・山菜、料理、お土産	回答数(件)
もずくうどん	18
あづべ汁	15
もずく	4
今別牛	4
りんご	3
たけのこ	2
荒馬キーホルダー	1
さもだし	1
大根、ごぼう	1
いまべつ牛ステーキ	1
いのしし肉	1
郷土料理	1
いまべつ本マグロ	1
メロン、スイカ、ぶどう、なし	1
わらび	1

問5

おすすめのまつり、行事、イベントを教えてください。
(今別町で行われるまつりや行事・イベント事など)

最も多かったのは「荒馬まつり(夏まつり・ねぶたまつり)」でした。次に「秋まつり」、「春まつり」と続きます。

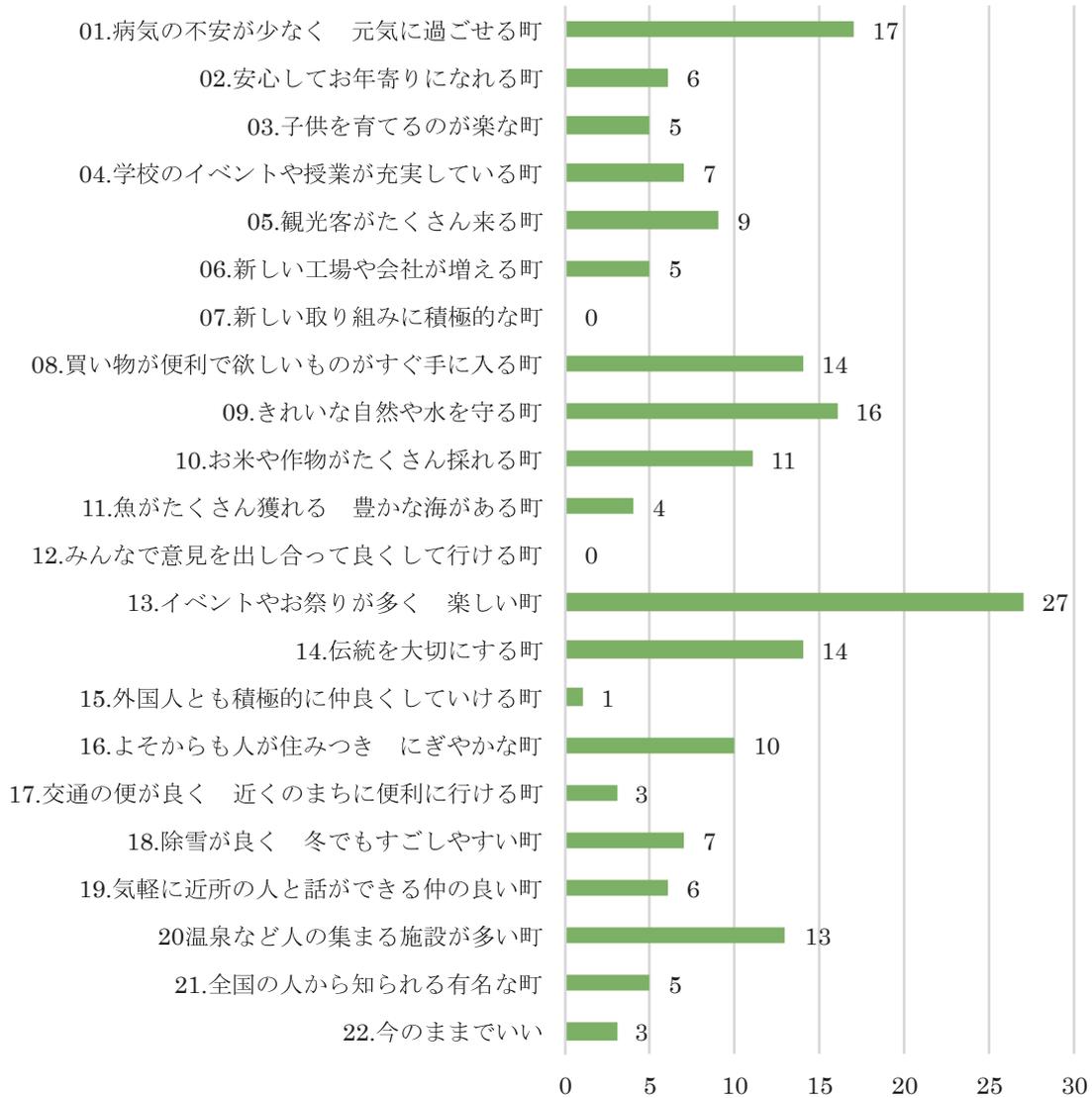
荒馬まつりではねぶたも出陣し、花火大会も行われる地元最大のおまつりです。

おまつり、行事、イベント	回答数(件)
荒馬まつり(夏まつり・ねぶたまつり)	40
秋まつり	18
春まつり	11
大川平荒馬	1
ふれあい運動会	1

問6

将来、今別町はどんな街になったらいいと思いますか？
次のうち、当てはまるもの5つまで選んで、数字に○をつけてください。

問6 将来の今別町に期待する姿



最も多かったのは、「イベントやお祭りが多く、楽しい町」でした。「病気の不安が少なく、元気に過ごせる町」、「きれいな自然や水を守る町」が続きます。

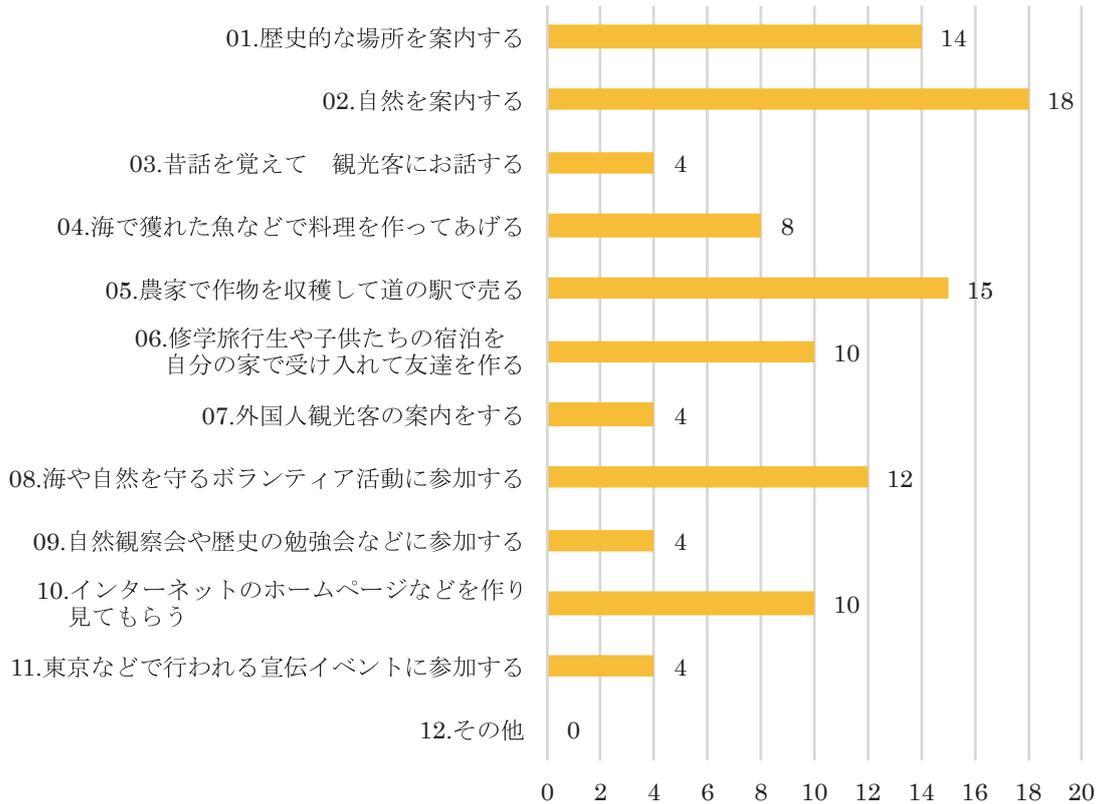
子どもも大人も元気で、環境もきれいなまま維持されている今別町を理想としているようです。

問7

来年、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅が開業し、多くの観光客が今別町を訪れることが予想されています。

こうした人たちに、今別町を知ってもらうために、あなたが次の活動について興味のあるものや参加したいものを3つまで選んで数字に○をつけてください。

問7 今別町を知ってもらうための活動



最も多いのは「自然を案内する」、次に「農家で作物を収穫して道の駅で売る」でした。自然や新鮮な農作物を通して今別町を知ってもらうのが効果的と考えているようです。「海や自然を守るボランティア活動に参加する」も同様の視点によるものとみられます。

問8

もし、あなたが町長さんだったら、どのようなことをやってみたいですか？
(例えば、「新しいおまつりをやってみたい」など)

以下の表のような意見が挙がりました。イベントや商店の出店に関するものが多くなっています。

意見 (n=34)	性別	学年
・新しいゲームを作ってみたい	男子	4年生
・ゲーム屋	男子	4年生
・人が楽しめるような話をしてみたい。 ・観光客がいっぱいくるようにポスターを作ってみたい	女子	4年生
・新しいお菓子を作る。 ・新しい店を作る。 ・新しい服を作る。 ・山登り	女子	4年生
・魚釣りまつり	男子	4年生
・大勢で楽しく遊べる場所を作る。 ・今別でやっているスポーツを紹介して一緒にやってみる	女子	4年生
・平和な町 ・子供が好きな事ができる町 ・ゲームセンター	男子	4年生
・これからもマラソンを続ける (前にやった時に皆が楽しんでいたので) ・山登り (今別町は山など自然がきれいだからやった方がいいと思った)	女子	4年生
・誰もが安心して暮らせるような明るい町にしたい	女子	4年生
・スーパーや温泉を作りたい。 ・海や山をきれいにするボランティアをやりたい	女子	4年生
・たくさん人がくるようにコンビニなどをたくさん作る	男子	5年生
・雪まつりなど、春、夏、秋まつりがあるから冬もやってみたい	女子	5年生
・冬、そりなどで遊べる冬まつりなど	女子	5年生
・店をもっと作って都会のような町にする	男子	5年生
・雪まつりをやってみたい	男子	5年生
・冬まつりをやりたい	女子	5年生
・何かの記念日を作ってみたい	男子	5年生
・今別町がより豊かな町にしたい	男子	6年生

・高齢者の人達と子供達のふれあう活動をやってみたい	男子	6年生
・今別町がずっと明るくあるために、新しい取り組みをしたり、ボランティアをする	女子	6年生
・温泉宿をもう1軒増やしたい	男子	6年生
・お年寄りから子供まで楽しめるイベントをしてみたい	女子	6年生
・特産物を増やす	男子	6年生
・学校を新しくしたい	男子	6年生
・来年開業の奥津軽いまべつ駅ができれば毎年開業記念としてまつりをしたい	女子	6年生
・新しいまつり	女子	6年生
・冬まつりをつくって、雪を使ったイベントをやってみたい	男子	6年生
・他のまつりをつくってみたい	男子	6年生
・もっと皆が楽しめる施設を作りたいです	男子	6年生
・町の人々の運動会	女子	6年生
・荒馬を体験できる場所を作る	男子	6年生
・やってみたいことがない	男子	6年生
・気軽に話ができる場所を作りたい	男子	6年生

◆今別町 子育て世帯支援制度調査(概要)

調査実施日：平成27年11月9日(月)～11月20日(金)

調査対象：町内に在住する0歳から小学校の子どもがいる世帯

回答数：61件

概 略：

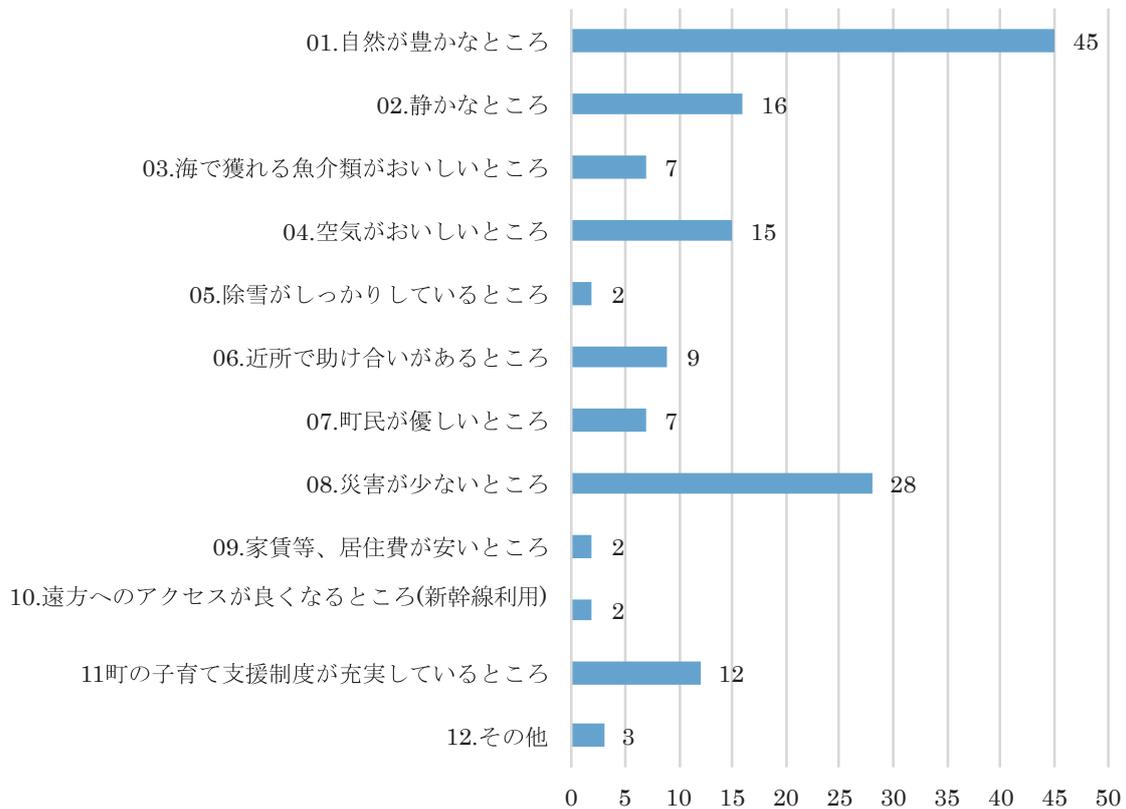
この調査は、人口減少対策に有効な施策を策定するため、子どものいる町民世帯に今別町で推進している子育て制度について感じていることや今後期待することなどをアンケート調査し、意見を計画に反映させるために行ったものです。

調査の結果からは、養育するうえでは今別町の自然豊かな地域であるという評価が高くなっています。支援ニーズとしては経済的負担の軽減に対する要望が高くなっています。

問1

今別町で子どもを養育するうえで気に入っているところはどのようなところですか。あてはまるものの数字に3つまで○を付けてください。

問1



最も多かったのは、「自然が豊かなところ」でした。また、「災害が少ないところ」という意見も多く挙がっています。

「その他」では、

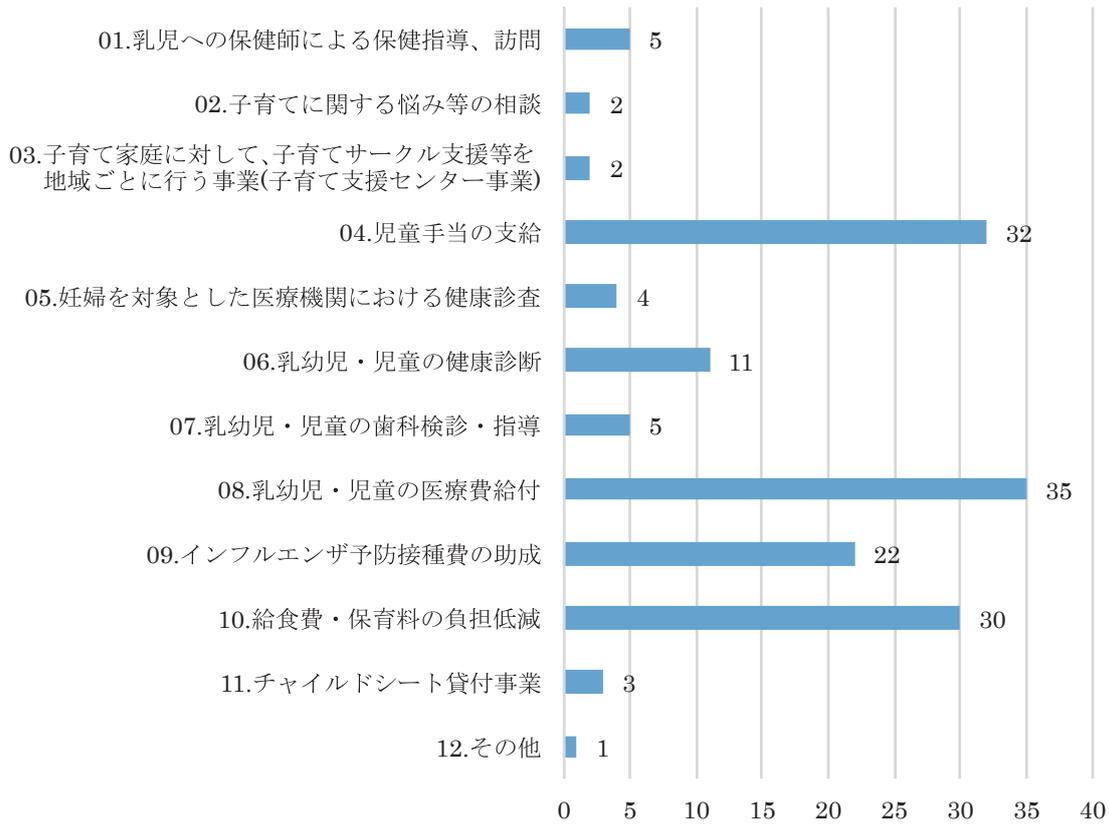
- 子供の祖父母と同居(30代女性)
- 行政や学校、保育園での子供達への対応が丁寧で親身な所(40代女性)
- 治安がよい(20代男性)

という回答がありました。

問2

町の子育て支援で充実している・満足している・期待をしているとお考えのものは何ですか。当てはまるものの数字に3つまで○を付けてください。
(子育て世帯以外が利用できるものも含まれています。)

問2



最も多かったのは、「乳幼児・児童の医療費給付」、次に「児童手当の支給」、「給食費・保育料の負担低減」、「インフルエンザ予防接種費の助成」と続きます。経済的負担を軽減する施策に評価が集中しています。

子育て世帯の直接的な経済支援を行う児童手当と共に、乳幼児・児童は風邪等で重篤化を防ぐために医療機関にかかりやすく、利用頻度が高いためとみられます。

その他の意見として、

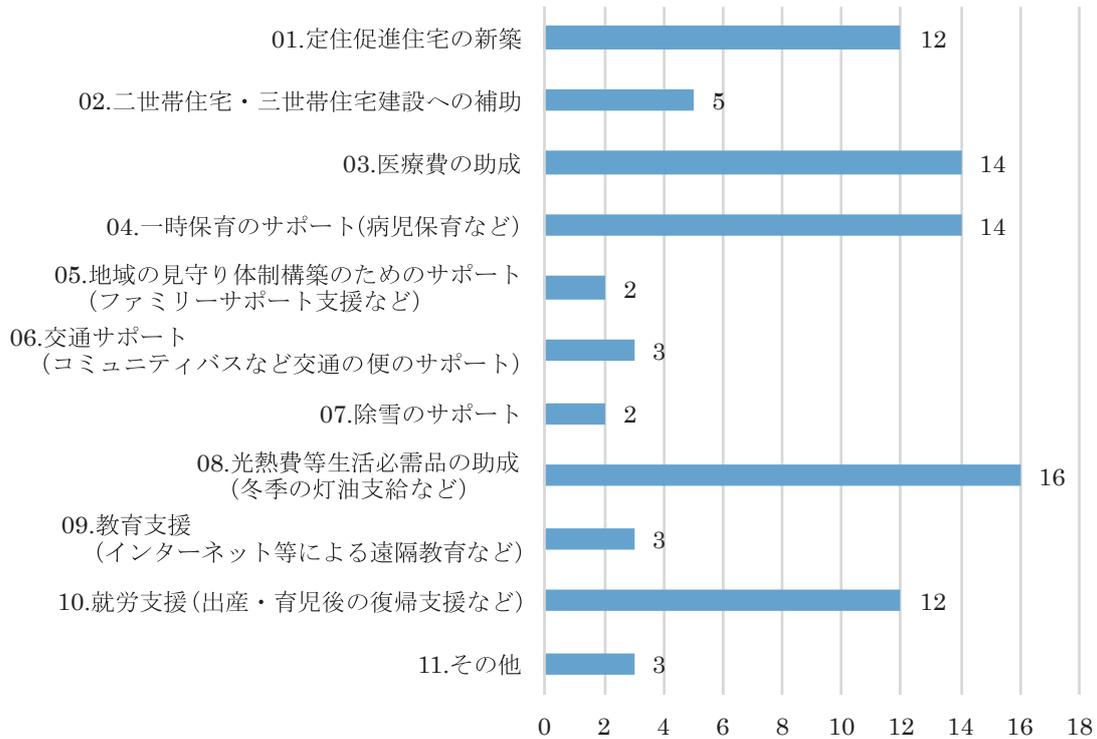
- 子ども教室(30代女性)

という意見がありました。

問3

今後、どのようなサポートがあれば、ますます子育て世帯の助けとなり、定住が促進されとお考えになりますか。

問3



最も多かった意見は「光熱費など生活必需品の助成(冬季の灯油支給など)」でした。現在は低所得世帯に対し、灯油の助成を行っていますが、子育て世帯の定住にも経済的な支援が役立つという意見でした。

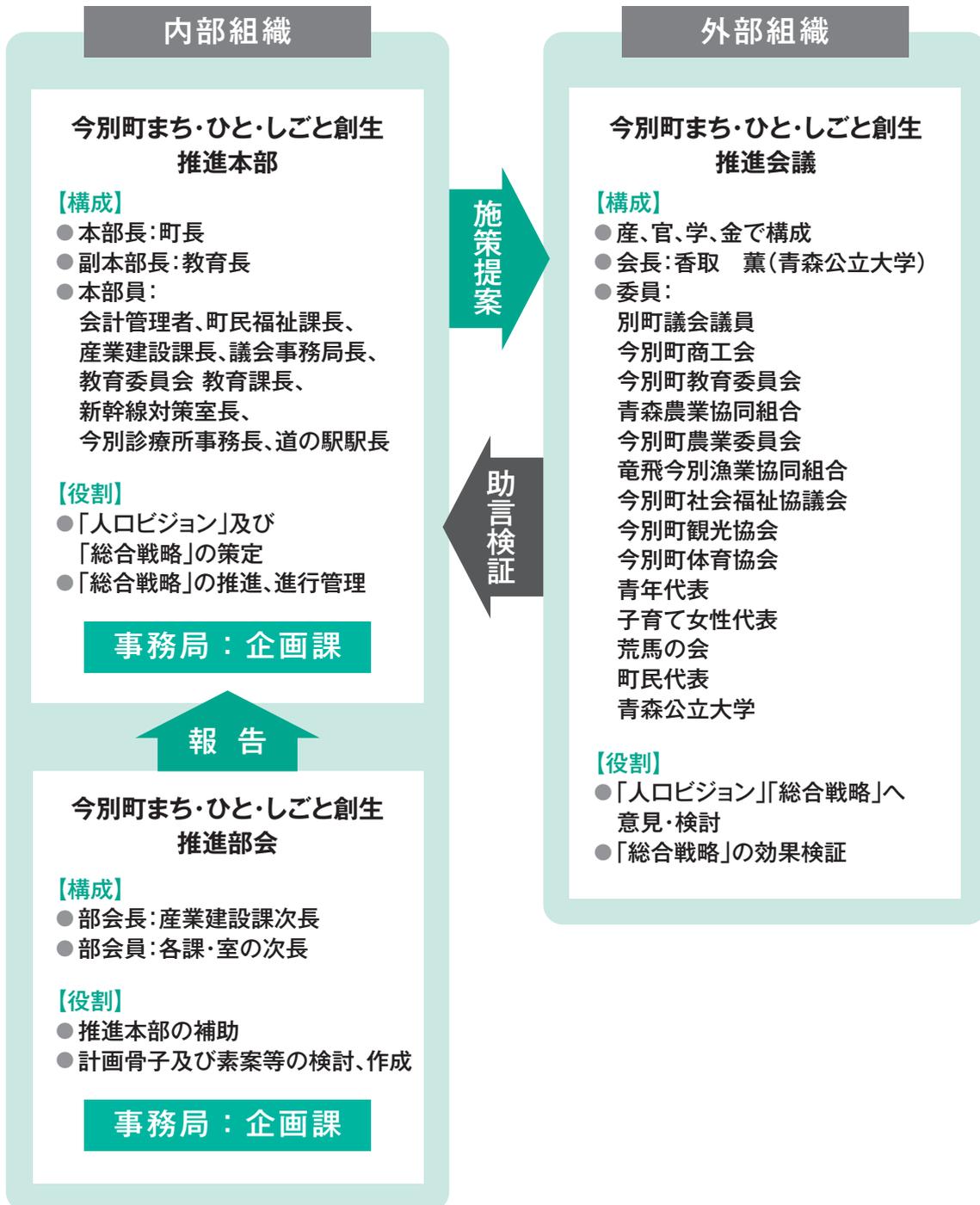
他には「医療費の助成」、「一時保育のサポート(病児保育など)」、「就労支援(出産・育児後の復帰支援など)」でした。

その他の意見には、

- 就職の確保(40代女性)
- 男女共に就労場所の増加(20代男性)
- 近くに小児科(30代女性)

が挙がりました。

2.今別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 体制図



今別町まち・ひと・しごと創生 総合戦略

発行 / 今別町企画課

〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別167
電話：0174-35-2001 / FAX：0174-35-2298